



僧帽弁閉鎖不全症（MMVD）

■ 病気の概要

心臓の左心房と左心室の間にある「僧帽弁」がうまく閉じなくなり、血液が逆流する病気です。キャバリア・チワワ・マルチーズ・ポメラニアンなどの小型犬の高齢の子に多く、犬の心臓病の約70～80%を占めます。初期は無症状のことも多いですが、進行すると心不全を引き起こします。定期的な検査で早めに見つけることが、その子らしい生活を長く維持することにつながります。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・咳（夜間・早朝・興奮したときに多い）
- ・運動を嫌がる、すぐ疲れる
- ・呼吸が速い・荒い（お腹が激しく動く）
- ・元気がない、ぐったりしている
- ・失神・突然倒れる
- ・食欲の低下

■ どんな検査をするの？

- ・聴診（心雑音の確認）
- ・胸部X線検査（心臓の大きさ・肺に水がたまっていないか）
- ・心臓超音波検査（心エコー）：弁の動き・逆流の程度の確認
- ・血液検査（BNP/NT-proBNP：心臓へのダメージの指標）
- ・血圧測定

■ 治療方法

内科治療

- ・ピモベンダン（心臓の働きを助ける薬）
- ・ACE阻害薬（心臓への負担を軽減する薬）
- ・利尿薬（肺に水がたまった場合）
- ・定期的な心エコーでステージを評価しながら調整

外科治療

- ・弁形成術（専門施設での外科治療）
- ・重症の心不全では入院・集中管理

■ ご家庭で気をつけること

- ・安静時の呼吸数を毎日確認する（胸・お腹の動きを1分間数える。正常：犬 20 回以下/猫 30 回以下）
- ・安静時の呼吸数が1分間 40 回を超えるときはご連絡ください
- ・塩分の多い食事・おやつは控える
- ・激しい運動は避け、適度な安静を保つ
- ・暑い時期や体温管理に気をつける

■ よくある質問

Q. 心雑音があると心臓病ですか？

A. 必ずしもそうではありません。雑音があっても無症状の段階のことがあります。定期的な心エコーで進行度を確認しましょう。

Q. 完治しますか？

A. 根治は難しい病気ですが、薬で進行を遅らせながらその子らしい生活を長く維持できることがほとんどです。

Q. いつから薬を始めますか？

A. 心臓の大きさや症状をもとに、国際ガイドライン（ACVIM 2019）に沿って判断します。

Q. 呼吸数の確認はどうするの？

A. 寝ているときに、胸またはお腹が上下する回数を1分間数えます。安静時 40 回を超えるときはご連絡ください。

Q. 定期検診の頻度は？

A. 病態のステージによって異なりますが、通常は3～6 ヶ月ごとの心エコーをお勧めしています。

■ なつ動物病院での診療について

聴診・胸部X線・心エコーを組み合わせることでステージを評価し、ACVIM ガイドラインに沿った薬物療法を行います。「最近咳が増えた」「呼吸が速い気がする」という小さな変化も、遠慮せずご来院ください。予約外でも診察しています。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください